

シラバス

【令和5年度】

盛岡医療大学校

柔道整復学科		基礎分野	専門基礎分野	専門分野
科目名 英語		講師名 関井 純子		
年次・開講時期	時間数／単位数／授業回数	教育方法		
1年次・前期	30時間／2単位／15回	講義 ・実技・実習・演習		
授業概要 (目的)	外国人患者に対して適切な対応ができる英会話の技能を身に着ける			
目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 柔道整復師として必要な語句や表現を理解して使えるようにする 2. 積極的に英語を学ぶ意欲を持つ 3. 日常英会話に慣れ親しむ 			
授業内容	教育内容	教育方法・留意点		
	<ol style="list-style-type: none"> 1. 受付で使う表現 (予約時間、名前、生年月日、職業、国籍など) 2. 問診で使う表現 (症状、痛みの種類、期間、アレルギーなど) 3. 施術時に使う表現 (動作の指示や説明) 4. 施術後に使う表現 (会計や次回の予約など) 5. 日常会話の練習 (あいさつ、ホテルで、日本食の紹介など) 	音読練習、ロールプレイ		
成績評価の方法 授業内に行う筆記テストと定期テストの合計点数 により評価する		テキスト・教材・参考書 自作プリント		
担当教員の実務経験の有無		有	・	無
実務経験の内容				

シラバス

【令和5年度】

盛岡医療大学校

柔道整復学科		基礎分野	専門基礎分野	専門分野
科目名 生命科学		講師名 高島 浩一郎		
年次・開講時期		時間数／単位数／授業回数	教育方法	
1年次・前期		30時間／2単位／15回	講義・実技・実習・演習	
授業概要 (目的)	生命を理解するための基礎、および、血液の働きを習うことにより、生理学や他の教科を学習しやすくなる。			
目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 体内の細胞内にある分子の働きを、患者さんに簡単に説明できる。 2. 細胞内小器官の働きを、患者さんに簡単に説明できる。 3. 血液内にある細胞と分子の働きを、患者さんに簡単に説明できる。 			
授業内容	教育内容		教育方法・留意点	
	第1回—すべての生命は細胞からなる。 第2回—水と油と細胞膜との関係 第3回—細胞膜を物質が通る仕方 第4回—細胞における遺伝情報の働き 第5回—体内の器官の種類、身体における恒常性 第6回—体液の働き、pHとはどういうものか 第7回—血液の成分にはどんなものがあるか 第8回—毛細血管内外で物質が移動する仕組み 第9回—赤血球の働き 第10回—白血球と血小板の働き 第11回—止血の仕組み 第12回—血液型の仕組み 第13回—免疫のあらまし 第14回—自然免疫の仕組み 第15回—獲得免疫の仕組み 第16回—試験内容の解説		講義や筆記試験、ドリル・レポートなどを行う予定である。単なる語句の丸暗記ではなく、身体の働きと仕組みを深く理解することが大切である。自分の言葉でノートにまとめたり、他人に説明できたり、問題が解けたりすれば、理解できたと言える。何回試みても理解できない事柄は、より基本となることを学ぶ必要がある。理解は少しずつしか深まらない。出てきた語句の意味、中学・高校の理科で習うことなど、これまでよくわかっていなかった基礎的なことを、人に聞いたり、調べたりして、理解して行ってほしい。	
成績評価の方法 筆記試験の点、レポート点、ドリル点を合わせて評価する。		テキスト・教材・参考書 生理学（南江堂）を教科書とし、手製プリントを参考資料として配布する。		
担当教員の実務経験の有無		有	・	無
実務経験の内容				

シラバス

【令和5年度】

盛岡医療大学校

柔道整復学科		基礎分野	専門基礎分野	専門分野
科目名 基礎運動学		講師名 杉山 渉		
年次・開講時期	時間数／単位数／授業回数	教育方法		
1年次・通年	60時間／4単位／30回	講義・実技・実習・演習		
授業概要 (目的)	運動学は、身体の構造と機能を学習することにより、身体のメカニズムと運動の様相を理解する。身体運動の理解に必要な生体力学や、全身の主な関節の運動、筋の機能について理解する。さらに、姿勢や歩行について学習し、人間の動作について運動学的観点から理解する			
目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 身体の構造と機能を学ぶ。 2. 全身の主な関節の運動、筋の機能を学ぶ。 3. 姿勢や歩行について学ぶ 			
授業内容	教育内容		教育方法・留意点	
	(前期) <ol style="list-style-type: none"> 1. 運動学の目的 2. 運動の表し方 3. 身体運動と力学 4. 運動器の構造と機能 5. 神経の構造と機能 6. 運動感覚 7. 反射と随意運動 (後期) <ol style="list-style-type: none"> 8. 四肢と体幹の運動 9. 姿勢 10. 歩行 11. 運動発達 12. 運動学習 		基本的な身体運動を表現することができるようにする。 復習を通して、自己の課題に気づき、課題克服に向けた取り組みを図るようにする。	
成績評価の方法 期末試験に出席状況、授業態度等を加味し、総合的に評価する。		テキスト・教材・参考書 「運動学」(改訂第3版)		
担当教員の実務経験の有無		有	・	無
実務経験の内容				

シラバス

【令和 5 年度】

盛岡医療大学校

柔道整復学科		基礎分野	専門基礎分野	専門分野
科目名 保健体育		講師名 久保田 豪 ・ 菅原 めぐみ		
年次・開講時期	時間数／単位数／授業回数	教育方法		
1 年次・通年	60 時間／ 4 単位／ 30 回	講義・実技・実習・演習		
授業概要 (目的)	柔道の基本的な礼法、受身動作を習得し安全に柔道を実施する。 また、「投の形」を学び、柔道の素養を理解する。			
目標	1 年生全員柔道 1 級取得を目指す。授業内での重大事故ゼロ。			
授業内容	教育内容		教育方法・留意点	
	1. 前受身 2. 横受身 3. 前回受身 4. 寝技の基本 5. 基本的な投技 6. 投の形（手技） 7. 投の形（腰技） 8. 投の形（足技） 9. 連続技 10. 約束乱取 11. 乱取 上記を十分に安全に留意した順序、難易度で行う。		・受身の習得は段階的に学生ごとの運動レベルに合わせながらしっかりと行う ・基本的に体格のあった者同士ペアでの技練習を段階的に行う ・柔道を行う上で必要な動作、服装が適切であるか（礼法、受身、技、身だしなみ）	
成績評価の方法 定期試験結果、出席状況、授業態度を評価の対象とする。		テキスト・教材・参考書 講道館柔道 DVD シリーズ第 3 作「投の形」		
担当教員の実務経験の有無		有	・	無
実務経験の内容				

シラバス

【令和5年度】

盛岡医療大学校

柔道整復学科		基礎分野	専門基礎分野	専門分野
科目名 心理学		講師名 内城 寛子		
年次・開講時期	時間数／単位数／授業回数	教育方法		
1年次・前期	30時間／2単位／15回	講義・実技・実習・演習		
授業概要 (目的)	社会に役立つ人材となるために、自己と他者の心の理解を深める。 特に自己の健全な心身育成、ソーシャルスキルの獲得、コミュニケーション能力や多様性に対する適応力を高めることを目的とする。			
目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 医療支援者の一員として、自己と他者の心身の健康管理に寄与できる。 2. 多様な価値観を修得し、コミュニケーション能力を高めることができる。 3. 社会の一員として、社会性を身に着ける。 			
授業内容	教育内容		教育方法・留意点	
	<ol style="list-style-type: none"> 1) 内省と自己理解 2) 人の心の理解・認知心理① 3) 人の心の理解・認知心理② 4) 心の健康とストレス対処 5) 社会性とライフスキル 6) コミュニケーションスキル 7) 発達とアイデンティティ 8) 学習と動機付け 9) バーンアウト 10) 競技における心理課題 11) 受傷後の復帰支援 12) 目標設定 13) コーチングとカウンセリング 14) ジェンダーとLGBT(多様性の理解) 15) チームワークとリーダーシップ 		<p>LGBTQや自閉スペクトラム等の特性のある学生に対しての配慮が必要。</p> <p>心的外傷(トラウマ)のある学生も受講する可能性があるため、言葉の選択には留意する。</p>	
成績評価の方法 試験の点数、小レポートの提出、授業態度を加味して評価する。		テキスト・教材・参考書 特に指定なし		
担当教員の実務経験の有無		有	・	無
実務経験の内容				

シラバス

【令和5年度】

盛岡医療大学校

柔道整復学科		基礎分野	専門基礎分野	専門分野
科目名 解剖学 I		講師名 高橋 滋美		
年次・開講時期	時間数／単位数／授業回数	教育方法		
1年次・通年	60時間／2単位／30回	講義・実技・実習・演習		
授業概要 (目的)	柔道整復師の臨床現場において、触診・鑑別の際の基本となる筋・骨格系の知識を習得することができるようになる。専門分野の学習に繋がる知識を身につける。			
目標	<ol style="list-style-type: none"> 骨の形状を描写することができる。 骨や筋の名称、構造、作用を理解し説明することができる。 国家試験レベルの問題を解くことができる。 			
授業内容	教育内容		教育方法・留意点	
	A 骨格系 1 総論 (1～2回) a.骨の役割 b.骨の形状による分類 c.骨の構造 d.骨の発生と成長 e.骨表面の形状(性状)についての用語 2 各論 (3～17回) a.脊柱 b.胸郭 c.上肢骨 d.上肢の関節 e.下肢骨 f.下肢の関節 g.頭蓋 B 筋系 (18回～30回) 1 骨格筋 2 頭部の筋 3 頸部の筋 4 胸部の筋 5 呼吸運動 6 腹部の筋 7 背部の筋 8 上肢の筋 9 下肢の筋		・教科書を要約したプリントを配布し、パワーポイントにて講義を行う。 ・講義を始める前に、前の週の確認試験を行おう。 ・長期休暇中に暗記してほしいポイントをまとめたプリントを配布する。	
成績評価の方法 定期試験の成績、出席状況、授業態度を加味して総合評価する。		テキスト・教材・参考書 解剖学(改訂版第2版) その他プリントを配布		
担当教員の実務経験の有無		有	・	無
実務経験の内容				

シラバス

【令和 5 年度】

盛岡医療大学校

柔道整復学科		基礎分野	専門基礎分野	専門分野
科目名 解剖学Ⅱ		講師名 杉山 渉		
年次・開講時期	時間数／単位数／授業回数	教育方法		
1年次・通年	60時間／2単位／30回	講義・実技・実習・演習		
授業概要 (目的)	解剖学総論においては細胞・組織・発生について基本的知識を身につける。各論においては脈管系・内臓系・内分泌系について構造・機能を理解し、さらに臨床事例とも関連付けながら習得する。			
目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 細胞・組織・発生について基本的知識を身につける。 2. 脈管系・内臓系・内分泌系について構造・機能が説明できる。 3. 臨床事例と関連付け説明できる。 			
授業内容	教育内容		教育方法・留意点	
	(前期) 1. 人体解剖学概説 ・細胞 ・組織 ・発生、器官 2. 脈管系 ・心臓 ・血管系 ・リンパ系 (後期) 4. 内臓系 ・消化器系 ・呼吸器系 ・泌尿器系 ・生殖器系 5. 内分泌系		復習を通して、自己の課題に気づき、課題克服に向けた取り組みを図るようにする。	
成績評価の方法 期末試験に出席状況、授業態度等を加味し、総合的に評価する。		テキスト・教材・参考書 「解剖学」(改訂第2版)		
担当教員の実務経験の有無		有	・	無
実務経験の内容				

シラバス

【令和 5 年度】

盛岡医療大学校

柔道整復学科		基礎分野	専門基礎分野	専門分野
科目名 解剖学Ⅲ		講師名 小野寺 悟		
年次・開講時期	時間数／単位数／授業回数	教育方法		
2 年次・通年	6 0 時間／ 2 単位／ 3 0 回	講義 ・実技・実習・演習		
授業概要 (目的)	中枢神経系・末梢神経系の理解、頭頸部・胸腹背部・上肢・下肢の筋と神経の理解、感覚器としての外皮・視覚器・聴覚器・平衡器・味覚器・嗅覚器の理解、体表解剖・映像解剖の把握を目的とする。			
目標	1. 中枢神経系の構造を立体的に把握し説明できる。末梢神経系では脳神経・脊髄神経の経路とその運動器・感覚器との関係を把握し、自律神経系とその効果器の関係を説明できる。2. 感覚器系では外皮・視覚器・聴覚器・平衡器・味覚器。嗅覚器について説明できる。3. 体表解剖と映像解剖について理解し、応用できる。.			
授業内容	教育内容		教育方法・留意点	
	前期 1 回～1 6 回 1 回～9 回 中枢神経の構造 1 0 回～1 2 回 伝導路 1 3 回 脳神経 1 4～1 5 回 脊髄神経 後期 1 回～1 6 回 1 回 自律神経系 2～3 回 頭部・頸部・体幹の筋と神経 4～5 回 上肢の筋と神経 6～7 回 下肢の筋と神経 9 回 外皮 1 0～1 2 回 特殊感覚 1 3～1 4 回 体表解剖 1 5 回 映像解剖		講義	
成績評価の方法		テキスト・教材・参考書		
定期試験の結果を主に、毎回の小テスト、出席状況、授業態度を加味して評価する。		解剖学（改訂第 2 版）ほか毎回講義内容のプリントを配布する。		
担当教員の実務経験の有無		有	・	無
実務経験の内容				

シラバス

【令和 5 年度】

盛岡医療大学校

柔道整復学科		基礎分野	専門基礎分野	専門分野
科目名 解剖学Ⅳ		講師名 杉山 渉		
年次・開講時期	時間数／単位数／授業回数	教育方法		
3 年次・通年	6 0 時間／ 2 単位／ 3 0 回	講義 ・実技・実習・演習		
授業概要 (目的)	「解剖学Ⅳ」では、正常な人体の形態・構造についての総復習を行い、医療科学分野における専門知識と技術を修得するための基礎とする。人が健康な生活をおくるためには、健康の維持・増進と疾病予防の科学的・合理的知識が必要であり、その基準となる正常な構造や機能を十分理解することを目的とする。			
目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 正常な人体の形態・構造についての総復習を行う。 2. 国家試験合格に達する知識を身につけさせる。 			
授業内容	教育内容	教育方法・留意点		
	<p>「解剖学」は生理学、柔道整復理論その他の科目にとって非常に重要な学問である。今まで学修してきたことを総復習することにより国家試験合格につなげる。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 人体解剖学概説 2. 運動系 3. 脈管系 4. 内臓系 5. 内分泌系 6. 神経系 7. 感覚器 8. 体表解剖 	<p>国家試験合格に達する知識力を身につけさせる。</p> <p>復習を通して国家試験合格につながる知識を修得させると同時に、資格取得後にも有用な知識の吸収に努めさせる。</p>		
成績評価の方法 中間試験および期末試験の成績により評価する。		テキスト・教材・参考書 「解剖学」(改訂第 2 版) 医歯薬出版株式会社		
担当教員の実務経験の有無		有	・	無
実務経験の内容				

シラバス

【令和 5 年度】

盛岡医療大学校

柔道整復学科	基礎分野	専門基礎分野	専門分野
科目名 <p style="text-align: center;">生理学 I</p>	講師名 <p style="text-align: center;">三條 敏也</p>		
年次・開講時期	時間数／単位数／授業回数	教育方法	
1 年次・前期・後期	60 時間／2 単位／30 回	講義 ・実技・実習・演習	
授業概要 (目的)	人体を構成する各器官系について基礎知識を習得し、生理学的機能を理解する。		
目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 生理学の重要用語について説明できる。 2. 教科書中の主要な図について説明できる。 3. 教科書中の主要な表について説明できる。 		
授業内容	教育内容	教育方法・留意点	
	生理学の各章のうち、循環器系、腎・泌尿器系、消化器系、及び栄養と代謝。	講義	
成績評価の方法 筆記試験に基づいて評価する。出席状況、課題レポートなどを加味する。	テキスト・教材・参考書 生理学 改訂 4 版、彼末一之編、全国柔道整復学校協会監修、南江堂		
担当教員の実務経験の有無	有	・	無
実務経験の内容			

シラバス

【令和 5 年度】

盛岡医療大学校

柔道整復学科		基礎分野	専門基礎分野	専門分野
科目名 生理学Ⅱ		講師名 三條 敏也		
年次・開講時期	時間数／単位数／授業回数	教育方法		
1 年次・前期・後期	60 時間／2 単位／30 回	講義 ・実技・実習・演習		
授業概要 (目的)	人体を構成する各器官系について基礎知識を習得し、生理学的機能を理解する。			
目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 生理学の重要用語について説明できる。 2. 教科書中の主要な図について説明できる。 3. 教科書中の主要な表について説明できる。 			
授業内容	教育内容		教育方法・留意点	
	生理学の各章のうち、呼吸器系、体温、内分泌系、生殖器系、骨。		講義	
成績評価の方法 筆記試験に基づいて評価する。出席状況、課題レポートなどを加味する。		テキスト・教材・参考書 生理学 改訂 4 版、彼末一之編、全国柔道整復学校協会監修、南江堂		
担当教員の実務経験の有無		有	・	無
実務経験の内容				

シラバス

【令和 5 年度】

盛岡医療大学校

柔道整復学科		基礎分野	専門基礎分野	専門分野
科目名 生理学Ⅲ		講師名 高島 浩一郎		
年次・開講時期		時間数／単位数／授業回数		教育方法
2 年次・通年		6 0 時間／ 2 単位／ 3 0 回		講義 ・実技・実習・演習
授業概要 (目的)	身体の各部の働きと仕組みを学ぶことにより、専門教科の理解が進み、患者の診療や治療の際に、科学的に考えるようになることが期待される。			
目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 筋収縮の仕組みと筋細胞の発達の仕方を、患者さんに簡単に説明できる。 2. それぞれの感覚の仕組みを、患者さんに簡単に説明できる。 3. 感覚に基づいて筋を動かす神経の働きを、患者さんに簡単に説明できる。 			
授業内容	教育内容		教育方法・留意点	
	<p>前期第 1 回～第 5 回—筋の分類から始めて、筋収縮の仕組みとエネルギーについて学び、筋細胞の役割と発達、各種の筋の違いを理解する。</p> <p>第 6 回～第 8 回—神経細胞が電気を使って働いている仕組みを理解する。</p> <p>第 9 回～第 1 1 回—中枢神経系の役割と仕組みを理解する。</p> <p>第 1 2 回～第 1 3 回—自律神経系の役割と仕組みを理解する。</p> <p>第 1 4 回～第 1 5 回—運動を起こす神経の役割と仕組みを理解する。</p> <p>後期第 1 回～第 5 回—運動の際に働く感覚器官・神経回路の役割と仕組みを理解する。</p> <p>第 6 回～第 1 5 回—感覚の分類から始めて、視覚、聴覚、味覚、嗅覚、皮膚感覚、深部感覚、内臓感覚のそれぞれの役割と仕組みを理解する。</p>		<p>講義や筆記試験、ドリル・レポートなどを行う予定である。単なる語句の丸暗記ではなく、身体の働きと仕組みを深く理解することが大切である。自分の言葉でノートにまとめたり、他人に説明できたり、問題が解けたりすれば、理解できたと言える。何回試みても理解できない事柄は、より基本となることを学ぶ必要がある。理解は少しずつしか深まらない。出てきた語句の意味、中学・高校の理科で習うことなど、これまでよくわかっていなかった基礎的なことを、人に聞いたり、調べたりして、理解して欲しい。</p>	
成績評価の方法 筆記試験の結果を主に、ドリル・レポート点を加味して評価する。		テキスト・教材・参考書 生理学(南江堂)を教科書とし、手製プリントを参考資料として配布する。		
担当教員の実務経験の有無		有	・	無
実務経験の内容				

シラバス

【令和 5 年度】

盛岡医療大学校

柔道整復学科	基礎分野	専門基礎分野	専門分野
科目名 生理学Ⅳ	講師名 三條 敏也		
年次・開講時期	時間数／単位数／授業回数	教育方法	
3 年次・通年	60 時間／2 単位／30 回	講義 ・実技・実習・演習	
授業概要 (目的)	人体を構成する各器官系について基礎知識を習得し、生理学的機能を理解する。		
目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 生理学の重要用語について説明できる。 2. 教科書中の主要な図について説明できる。 3. 教科書中の主要な表について説明できる。 		
授業内容	教育内容	教育方法・留意点	
	生理学の各章のうち、生理学の基礎、血液、免疫系、循環器系、呼吸器系、腎・泌尿器系、消化器系、栄養と代謝、神経の電気的性質、中枢神経系、12 脳神経、自律神経系、下行性伝導路、体性感覚、特殊感覚、及び骨格筋。	講義	
成績評価の方法 筆記試験に基づいて評価する。出席状況、課題レポートなどを加味する。	テキスト・教材・参考書 生理学 改訂 4 版、彼末一之編、全国柔道整復学校協会監修、南江堂		
担当教員の実務経験の有無	有	・	無
実務経験の内容			

シラバス

【令和 5 年度】

盛岡医療大学校

柔道整復学科		基礎分野	専門基礎分野	専門分野
科目名 運動学		講師名 清水 茂幸		
年次・開講時期	時間数／単位数／授業回数	教育方法		
3 年次・前期	3 0 時間／ 1 単位／ 1 5 回	講義 ・実技・実習・演習		
授業概要 (目的)	柔道整復師に必要な、人間の運動に関わる身体の機能と構造について学ぶ。			
目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 身体の運動の正しいメカニズムを理解すること。 2. 臨床現場で遭遇する故障と運動の関わりについて個別理解できるようにする。 3. 国家試験に合格する知識をつけること。 			
授業内容	教育内容	教育方法・留意点		
	運動学の目的、運動の表し方、身体運動と力学、運動器の構造と機能、神経の構造と機能、運動感覚、反射と随意運動、四肢の運動、体幹の運動、姿勢、歩行、運動発達、運動学習などの内容を学び、正常時の身体の機能について理解する。	<p>知識に関して: 関節に正しい動作とそれを支える筋肉の働きについて説明できる。</p> <p>態度に関して: 正しい動作を自分自身で行うことができる。</p> <p>技能に関して: 身体の正しい動作を理解した上で治療を行う力を身につける。</p>		
中間試験及び期末試験の結果を基に、出席状況、出席態度を加味して評価する。		テキスト・教材・参考書 運動学 (改訂第 3 版)		
担当教員の実務経験の有無		有	・	無
実務経験の内容				

シラバス

【令和 5 年度】

盛岡医療大学校

柔道整復学科		基礎分野	専門基礎分野	専門分野
科目名 高年齢者の生理学的特徴・変化		講師名 三條 敏也		
年次・開講時期	時間数／単位数／授業回数	教育方法		
2 年次・後期	1 5 時間／1 単位／8 回	講義 ・実技・実習・演習		
授業概要 (目的)	高年齢者の生理学的特徴、高年齢者に多い疾患・障害について基礎知識を習得する。			
目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 高年齢者の生理学的特徴について説明できる。 2. 加齢に伴う主な人体機能の変化について説明できる。 3. 高年齢者に多い疾患・障害について説明できる。 			
授業内容	教育内容	教育方法・留意点		
	加齢に伴う人体機能の変化（神経系、運動器系、感覚器系、循環器系、呼吸器系、消化器系、皮膚）、高年齢者に多い疾患・障害（フレイル、サルコペニア、認知症、骨粗鬆症、転倒、睡眠障害など）、加齢と運動との関係。	講義		
成績評価の方法 筆記試験に基づいて評価する。出席状況、課題レポートなどを加味する。	テキスト・教材・参考書 生理学 改訂 4 版、彼末一之編、全国柔道整復学校協会監修、南江堂			
担当教員の実務経験の有無	有	・	無	
実務経験の内容				

シラバス

【令和 5 年度】

盛岡医療大学校

柔道整復学科		基礎分野	専門基礎分野	専門分野
科目名 競技者の生理学的特徴・変化		講師名 清水 茂幸		
年次・開講時期	時間数／単位数／授業回数	教育方法		
2 学年・後期	1 5 時間／1 単位／8 回	講義・実技・実習・演習		
授業概要 (目的)	柔道整復師に必要な、発育・発達に伴う身体機能の変化について学ぶ。			
目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 成長に伴う身体の発育・発達に関して正しく理解すること。 2. 競技者のトレーニング後の身体の変化に関して理解すること。 3. 国家試験に合格する知識をつけること。 			
授業内容	教育内容		教育方法・留意点	
	<p>成長に伴うからだや運動能力の発達 (小児から青年期の発育曲線、小児期から青年期の発育の特徴、小児期から青年期の呼吸循環機能と運動、発育期の運動不足・過運動の影響、運動の発達と習熟)</p> <p>競技者の生理学的特徴・変化 (トレーニングによる筋・心肺機能の適応的变化、トレーニングによる神経機構の変化、トレーニングによる姿勢調節能力の変化、眼球運動と姿勢制御)</p> <p>上記の内容を学び、発育・発達に伴う身体機能の変化について理解する。</p>		<p>知識に関して：成長に伴う様々な事柄について正しく理解し、説明できる。正しいトレーニング方法を理解し説明できる。</p> <p>態度に関して：正しいトレーニング方法を自身でも行うことができる。</p> <p>技能に関して：発育発達及び正しいトレーニング方法を理解した上で怪我を起こさないような身体のケア方法を指導する力を身につける。</p>	
期末試験の結果を基に、出席状況、出席態度を加味して評価する。		テキスト・教材・参考書 生理学（改訂第 4 版）		
担当教員の実務経験の有無		有	・	無
実務経験の内容				

シラバス

【令和 5 年度】

盛岡医療大学校

柔道整復学科		基礎分野	専門基礎分野	専門分野
科目名 病理学		講師名 増田 由紀子		
年次・開講時期	時間数／単位数／授業回数	教育方法		
2年次・通年	60時間／2単位／30回	講義 ・実技・実習・演習		
授業概要 (目的)	疾病の概念を明らかにするため疾病の原因・各種の疾患の基礎知識を習得させる			
目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 必要な知識をしっかりと記憶し、応用できる。 2. 履修範囲の演習問題に積極的に取り組み授業での答え合わせまでに用意できる。 3. 国家試験レベルの問題が解ける。 			
授業内容	教育内容		教育方法・留意点	
	1章 病理学とは 2章 疾病の一般 3章 細胞障害 4章 循環障害 5章 進行性病変 6章 炎症 7章 免疫 8章 腫瘍 9章 先天異常 10章 病因		教科書をわかりやすく要約したプリントを使用して講義を行う。 →要点のまとめプリント（書き込み式）を課題として行わせ、授業で答え合わせをする。 →演習問題（国試の傾向に沿った実践練習）を課題として行わせ、授業で答え合わせをする。	
成績評価の方法 定期試験		テキスト・教材・参考書 病理学概論（医歯薬出版） オリジナルプリント		
担当教員の実務経験の有無		有	・	無
実務経験の内容				

シラバス

【令和 5 年度】

盛岡医療大学校

柔道整復学科	基礎分野	専門基礎分野	専門分野
科目名 一般臨床医学 I		講師名 小野寺 悟	
年次・開講時期	時間数／単位数／授業回数	教育方法	
1 年次・後期	30 時間／1 単位／15 回	講義 ・実技・実習・演習	
授業概要 (目的)	2 学年次に続く各論のスムーズな理解ができる様にする事が目的である		
目標	1. 一般臨床医学総論について、診察概論、視診、打診、触診、生命兆候、感覚検査、反射検査、病的反射、代表的な臨床症状について十分に理解できるようになる。 2. 2 学年次に続く各論のスムーズな理解に繋げられるようになる。		
授業内容	教育内容	教育方法・留意点	
	診察概論、①視診：体格と体型、体位と姿勢、栄養状態、精神状態、異常運動、歩行、皮膚の状態、頭部、顔面、頸部、胸部、腹部、背部、腰部、四肢 ②打診、聴診、触診 ③生命兆候：体温、血圧、脈拍、呼吸 ④感覚検査、反射検査、病的反射、クローヌス、自律神経反射 ⑤代表的な臨床症状：発熱、出血傾向、リンパ節腫脹、意識障害、チアノーゼ、関節痛、浮腫、肥満、やせ	講義	
成績評価の方法 定期試験の結果を主に、毎回の小テスト、出席状況、授業態度を加味して評価する。		テキスト・教材・参考書 一般臨床医学 改訂第3版 医歯薬出版 ほか毎回講義内容のプリントを配布する。	
担当教員の実務経験の有無		有	無
実務経験の内容			

シラバス

【令和 5 年度】

盛岡医療大学校

柔道整復学科		基礎分野	専門基礎分野	専門分野
科目名 一般臨床医学Ⅱ		講師名 小野寺 悟		
年次・開講時期	時間数／単位数／授業回数	教育方法		
2年次・通年	60時間／2単位／30回	講義 ・実技・実習・演習		
授業概要 (目的)	検査法を理解でき、臓器別各論について解剖学的構造と結び付けて説明できる。			
目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 検査法について説明できる 2. 臓器別疾患各論の各項目の疾患を列挙できるようになる 3. 特に、解剖学的構造に基づいて、各疾患の成因を説明できる 			
授業内容	教育内容	教育方法・留意点		
	前期 1回 検査法 2～4回 消化器疾患 6～7回 呼吸器疾患 9～10回 循環器系の解剖学復習 11～13回 循環器疾患 14～15回 血液疾患 後期 1～2回 内分泌疾患 4回 代謝疾患 5回 膠原病 6～7回 腎尿路疾患 9～10回 神経解剖学の復習 11～13回 神経系疾患 14回 感染症 16回 その他の疾患	講義		
成績評価の方法 定期試験の結果を主に、毎回の小テスト、出席状況、授業態度を加味して評価する。		テキスト・教材・参考書 一般臨床医学 改訂第3版 医歯薬出版 ほかに 毎回の講義内容のプリントを配布する。		
担当教員の実務経験の有無		有	・	無
実務経験の内容				

シラバス

【令和 5 年度】

盛岡医療大学校

柔道整復学科	基礎分野	専門基礎分野	専門分野
科目名 外科学概論	講師名 小野寺 悟		
年次・開講時期	時間数／単位数／授業回数	教育方法	
2 年次・通年	60 時間／2 単位／30 回	講義 ・実技・実習・演習	
授業概要 (目的)	総論の各項目について明確に説明できる。 各論については各疾患にたいして適切な救急法を判断できる		
目標	1. 総論の各項目を理解し説明できる 2. 各論の一般外科各項目を理解し、とくに救急法を適応を判断できるようになる		
授業内容	教育内容	教育方法・留意点	
	前期 外科学とは 1 損傷 A 損傷 B 創傷 C 熱傷 2 炎症と外科感染症 A 炎症 B 外科感染症 3 腫瘍 A～L 4 ショック 5 輸血と輸液 A 輸血 B 一般輸血 C 高カロリー輸液 6 消毒と 滅菌 7 手術 8 麻酔 後期 9 移植と免疫 10 出血と止血 11 心肺蘇生法 12 脳神経外科 13 甲状腺・頸部疾患 14 胸 壁・呼吸器疾患 15 心臓・脈管疾患 17 腹部 外科疾患	講義	
成績評価の方法 定期試験の結果を主に、毎回の小テスト、出席状 況、授業態度を加味して評価する。	テキスト・教材・参考書 外科学概論 改訂第4版 医歯薬出版 ほか毎回 講義内容のプリントを配布する。		
担当教員の実務経験の有無	有	・	無
実務経験の内容			

シラバス

【令和 5 年度】

盛岡医療大学校

柔道整復学科		基礎分野	専門基礎分野	専門分野
科目名 整形外科学		講師名 小野寺 悟		
年次・開講時期	時間数／単位数／授業回数	教育方法		
2 年次・通年	60 時間／2 単位／30 回	講義 ・実技・実習・演習		
授業概要 (目的)	総論においては、運動器の基礎知識、診察方、検査法、治療法について、理解出来る様になり、各論においては、解剖学的知識に裏打ちされた知識を習得する事を目的とする。			
目標	1. 総論においては、運動器の基礎知識、診察方、検査法、治療法について、理解し、2. 疾患別各論においては、特に一般臨床医学の知識を踏まえながら各疾患の特徴を十分に理解し、3. 身体部位別各論においては、解剖学的知識に裏打ちされた知識を習得する事を目的とする。			
授業内容	教育内容		教育方法・留意点	
	総論 1 運動器の基礎知識 2 整形外科診察法 3 整形外科検査法 4 整形外科的治療法 5 骨・関節損傷総論 6 スポーツ整形外科総論 7 リハビリテーション総論 各論 8 疾患別各論 A 感染性疾患 B 骨および軟部腫瘍 C 非感染性軟部・骨関節疾患 D 全身性の骨・軟部疾患 E 骨端症 F 四肢循環障害 G 神経・筋疾患 9 身体部位別各論 A 体幹 A-1 頸部 A-2 胸部 A-3 腰部 B 肩甲帯および上肢の疾患 B-1 肩・肩甲帯 B-2 上腕・肘関節 B-3 前腕 B-4 手関節 B-5 手・手指 C 骨盤および下肢の疾患 C-1 骨盤・股関節 C-2 大腿・膝関節 C-3 下腿・足関節 C-4 足・足趾		講義	
成績評価の方法 期試験の結果を主に、毎回の小テスト、出席状況、授業態度を加味して評価する。		テキスト・教材・参考書 整形外科学（改訂第4版）ほか毎回講義内容のプリントを配布する。		
担当教員の実務経験の有無		有	・	無
実務経験の内容				

シラバス

【令和5年度】

盛岡医療大学校

柔道整復学科		基礎分野	<input checked="" type="checkbox"/> 専門基礎分野	専門分野
科目名 リハビリテーション医学		講師名 上濱 龍也		
年次・開講時期	時間数／単位数／授業回数	教育方法		
2年次・通年	60時間／2単位／30回	<input checked="" type="checkbox"/> 講義・実技・実習・演習		
授業概要 (目的)	リハビリテーションの概念、障害学、評価法や治療技術、高齢者理解などリハビリテーション医学の基本及びリハビリテーションスポーツについて理解できるとともに、柔道整復師とのかかわりについて考えることができる。			
目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. リハビリテーションの理念や対象、障害者の実態や階層とアプローチについて説明できる 2. リハビリテーションに関わる領域としての評価学や障害学、治療学、さらに高齢者、運動器などに対するリハビリテーションについて説明できる 3. リハビリテーションに関連する職種、福祉について説明できるとともに、障害者スポーツについても説明することができる 			
授業内容	教育内容	教育方法・留意点		
	第1回 リハビリテーションの理念 第2回 リハビリテーションの対象と障害者の実態 第3回 障害者の階層とアプローチ 第4～6回 リハビリテーション評価学 第7回 第1～6回のふりかえり 第8～11回 リハビリテーション障害学と治療学 第12回 リハビリテーション医学の関連職種 第13～14回 リハビリテーション治療技術 第15回 第8～14回のふりかえり 第16回 試験の解説 第17～19回 リハビリテーション治療技術 第20～22回 高齢者のリハビリテーション 第23回 第17～22回のふりかえり 第24～28回 運動器のリハビリテーション 第29回 リハビリテーションと福祉 第30回 障害者スポーツ 第31回 第24～30回のふりかえり 第32回 試験の解説	講義・配布資料の復習ならびに次回講義に関する予習		
成績評価の方法 中間試験及び期末試験により評価する		テキスト・教材・参考書 リハビリテーション医学 改訂第4版 (南江堂)		
担当教員の実務経験の有無		有	・	<input checked="" type="checkbox"/> 無
実務経験の内容				

シラバス

【令和5年度】

盛岡医療大学校

柔道整復学科		基礎分野	専門基礎分野	専門分野
科目名 柔道整復術の適応		講師名 小野寺 悟		
年次・開講時期	時間数／単位数／授業回数	教育方法		
3年次・前期	30時間／2単位／15回	講義・実技・実習・演習		
授業概要 (目的)	適切な柔道整復術を行うため、柔道整復が適応されるか否かの判断能力を養う。			
目標	1. 適正な病態の把握ができる 2. 柔道整復師と整形外科医が連携して、運動器疾患の治療に貢献する			
授業内容	教育内容		教育方法・留意点	
	1回 1～2. 損傷に類似した症状を示す疾患 A 内臓疾患の投影を疑う疼痛 2回 B 腰痛を伴う疾患 3回 C 化膿性の炎症など～ 4回 3. 血流障害を伴う疾患 5回 4. 末梢神経損傷を伴う損傷 6回 ～4. ～5. 脱臼骨折 7回 6. ～7. 病的骨折および脱臼 8回 中間試験解説授業 9回 脳について (解剖学復習) 10回 8. 意識障害を伴う損傷 11回 脳挫傷～ 12回 脊髄について (解剖学復習) 13回 9. 脊髄症状のある損傷 14回 10. ～11. 内臓損傷の合併が疑われる損傷 15回 骨盤骨折～12. 高エネルギー外傷 16回 期末試験解説授業		講義	
成績評価の方法 定期試験の結果を主に、毎回の小テスト、出席状況、授業態度を加味して評価する。		テキスト・教材・参考書 医療の中の柔道整復 (第1版) ほか毎回講義内容のプリントを配布する。		
担当教員の実務経験の有無		有	・	無
実務経験の内容				

シラバス

【令和5年度】

盛岡医療大学校

柔道整復学科		基礎分野	専門基礎分野	専門分野
科目名 衛生学・公衆衛生		講師名 田沢 光正		
年次・開講時期	時間数／単位数／授業回数	教育方法		
1年次・通年	60時間／2単位／30回	講義・実技・実習・演習		
授業概要 (目的)	人間集団を対象とする生態系を含めた健康や疾病について、その健康増進や予防について理解できる。			
目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 医療人としての衛生学・公衆衛生学の基本的知識と方法論を習得する。 2. 個人および集団の健康レベルと疾病予防に寄与できる。 3. 患者および他の医療従事者とコミュニケーションが十分にとれる。 			
授業内容	教育内容	教育方法・留意点		
	<ol style="list-style-type: none"> 1. 公衆衛生の概念と歴史および健康の概念について学ぶ。 2. 心身の健康を保持・増進するための基本的知識と方法論を習得する。 3. 国・地方公共団体などの責任によって進められる保健行政（地域保健、学校保健、産業保健、環境）や衛生統計について学ぶ。 4. 疫学的手法を学び、個人および集団に健康の寄与できる基本知識と意欲を身につける。 	講義		
成績評価の方法 定期試験の成績により評価する		テキスト・教材・参考書 衛生学・公衆衛生学 改定第6版（南江堂） 講師が配布する「まとめ」と「練習問題」		
担当教員の実務経験の有無		有	・	無
実務経験の内容				

シラバス

【令和 5 年度】

盛岡医療大学校

柔道整復学科	基礎分野	専門基礎分野	専門分野
科目名 関係法規 I	講師名 鈴木 星子		
年次・開講時期	時間数／単位数／授業回数	教育方法	
2年次・前期	15時間／1単位／8回	講義 ・実技・実習・演習	
授業概要 (目的)	法の意義・体系、柔道整復師法ほか関係法規、患者の権利、リスクマネジメント、医療事故と医療過誤について理解し知識を身につける。		
目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 法の意義・体系について理解し、説明ができる。 2. 柔道整復師法ほか関係法規について理解し説明ができる 3. 医療事故・医療過誤の違いやリスクマネジメントについて理解し説明ができる。 		
授業内容	教育内容	教育方法・留意点	
	<ol style="list-style-type: none"> 1. 序論 (1回) 2. 柔道整復師法 (3回) 3. 関係法規 (3回) 	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書をベースにプリントを活用し理解を深める。 ・演習問題を行い、授業内容の離開を深める。 	
成績評価の方法 定期試験の成績と各講義の課題を加味して評価する。	テキスト・教材・参考書 関係法規 2023年版 (医歯薬出版) プリントを配布する。		
担当教員の実務経験の有無	有	・	無
実務経験の内容			

シラバス

【令和5年度】

盛岡医療大学校

柔道整復	学科	基礎分野	専門基礎分野	専門分野
科目名 関係法規Ⅱ		講師名 松岡 靖		
年次・開講時期	時間数／単位数／授業回数		教育方法	
3年次・後期	30時間／1単位／15回		講義・実技・実習・演習	
授業概要 (目的)	柔道整復師法を中心に、他医療職種の資格法（医師法、保健師助産師看護師法など）や医療法、社会福祉関係法規、社会保険関係法規、個人情報の保護に関する法律などを理解し、国家試験必修問題レベルの知識を身に付けることを目的とする。			
目標	1. 柔道整復師法や諸関係法規についての国家試験必修問題を確実に正答することができる。			
授業内容	教育内容		教育方法・留意点	
	1回：序論 2回～6回：柔道整復師法とその関連内容 7回：試験前まとめ 8回：解説授業 医療従事者の資格法 9回～10回：医療法、社会福祉関連法規、社会保険関連法規、その他の関係法規 11回～13回：総復習 14回：年度末小テスト 15回：小テスト解説・年間まとめ		講義形式 授業終了時に同日の授業で学習した範囲の問題演習を行う。	
成績評価の方法 定期試験・年度末小テストにてそれぞれ50%ずつの割合で評価する。		テキスト・教材・参考書 公益社団法人全国柔道整復学校協会監修 関係法規（2022年版）（医歯薬出版）ほか、資料プリントを配布する。		
担当教員の実務経験の有無		有	・	無
実務経験の内容				

シラバス

【令和5年度】

盛岡医療大学校

柔道整復学科		基礎分野	専門基礎分野	専門分野
科目名 医療概論		講師名 萩野 裕子		
年次・開講時期	時間数／単位数／授業回数		教育方法	
3年次・後期	15時間／1単位／8回		講義・実技・実習・演習	
授業概要 (目的)	<p>1. 患者の権利、医療の安全について学ぶ。 患者が医療行為を受けるか否かを自ら決定する選択の自由と自己決定権について、医療事故や医療過誤を防ぐためのリスクマネジメントについて学ぶ。</p> <p>2. 社会保障と医療経済について学ぶ。 社会保障制度、社会福祉制度、国民医療費、柔道整復師と療養費について理解する。</p>			
目標	<p>1. 患者の権利を尊重し、医療の安全について積極的に考え行動できる医療人を育成する。</p> <p>2. 社会保障制度、社会福祉制度、国民医療費、療養費などを理解し、正しく運用できる医療人を育成する。</p>			
授業内容	教育内容		教育方法・留意点	
	①社会保障制度 ②医療保障制度 ③療養費制度 ④患者の自己決定権		<ul style="list-style-type: none"> ・具体的ケース・スタディを提示して、学生自ら考えどのように行動すべきかを討論しながら進める。 ・必要に応じてプリントを配布、Power Pointなども利用しながら授業を進める。 ・内容の理解度を演習問題で確認しながら進める。 	
成績評価の方法 定期試験（後期中間試験）の成績と出席状況、授業態度を加味して総合評価する。		テキスト・教材・参考書 社会保障制度と柔道整復師の職業倫理(医歯薬出版)		
担当教員の実務経験の有無		有	・	無
実務経験の内容				

シラバス

【令和 5 年度】

盛岡医療大学校

柔道整復学科	基礎分野	専門基礎分野	専門分野
科目名 柔道 I	講師名 渡部 康光		
年次・開講時期	時間数／単位数／授業回数	教育方法	
2年次・後期	30時間／1単位／15回	講義・ 実技 ・実習・演習	
授業概要 (目的)	柔道の基本的な礼法や技法を習得し初段を目標にし、心身の鍛錬を通して、柔道整復師としての人格の陶冶を目的とする		
目標	1. 初段取得を目標とする。		
授業内容	教育内容	教育方法・留意点	
	道場にて準備運動、補強運動を行い、礼法、受身、投の形、約束乱取を行う。	基礎体力をつけ、けがのないよう指導する。	
成績評価の方法 実技試験の結果を主に出席状況、授業態度等を加味して評価する。		テキスト・教材・参考書 柔道着	
担当教員の実務経験の有無		有 ・ 無	
実務経験の内容			

シラバス

【令和 5 年度】

盛岡医療大学校

柔道整復学科		基礎分野	専門基礎分野	専門分野
科目名 柔道Ⅱ		講師名 渡部 康光		
年次・開講時期	時間数／単位数／授業回数	教育方法		
3 学年・通年	60 時間／2 単位／30 回	講義・実技・実習・演習		
授業概要 (目的)	柔道の基本的な礼法や技法を習得し初段を目標にし、心身の鍛錬を通して、柔道整復師としての人格の陶冶を目的とする			
目標	1. 初段取得を目標とする。			
授業内容	教育内容	教育方法・留意点		
	道場にて準備運動、補強運動を行い、礼法、受身、投の形、約束乱取を行う。	基礎体力をつけ、けがのないよう指導する。		
成績評価の方法 実技試験の結果を主に出席状況、授業態度等を加味して評価する。		テキスト・教材・参考書 柔道着		
担当教員の実務経験の有無		有	・	無
実務経験の内容				

シラバス

【令和 5 年度】

盛岡医療大学校

柔道整復学科		基礎分野	専門基礎分野	専門分野
科目名 職業倫理		講師名 萩野 裕子		
年次・開講時期	時間数／単位数／授業回数	教育方法		
3 年次・後期	1 5 時間／1 単位／8 回	講義 ・実技・実習・演習		
授業概要 (目的)	1. 柔道整復師が果たすべき役割や職業観、医の倫理について学ぶ。			
目標	1. 正しい職業倫理観を持った柔道整復師を育成する。			
授業内容	教育内容	教育方法・留意点		
	A 医療従事者の職業倫理 B 柔道整復師に必要な基本的倫理観と患者への対応 ①患者への説明 ②医療従事者における守秘義務 C 柔道整復師の社会的責任と対応 ①施術で必ず治せなければならないのか ②施術で患者の状態が悪化 D グループ・ディスカッション事例 E 医療における情報と責任	・必要に応じてプリントを配布、Power Point など利用しながら授業を進める。 ・理解度を演習問題で確認しながら進める。		
成績評価の方法 出席状況、授業態度を加味して総合評価する。		テキスト・教材・参考書 社会保障制度と柔道整復師の職業倫理(医歯薬出版)		
担当教員の実務経験の有無		有	・	無
実務経験の内容				

シラバス

【令和5年度】

盛岡医療大学校

柔道整復学科	基礎分野	専門基礎分野	専門分野
科目名 社会保障制度	講師名 鈴木 星子		
年次・開講時期	時間数／単位数／授業回数	教育方法	
2年次・前期	15時間／1単位／8回	講義・実技・実習・演習	
授業概要 (目的)	わが国の社会保障制度の概略と、柔道整復療養費支給申請及び受領委任制度について理解し、知識を身につける。		
目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 社会保障制度について理解し、説明ができる。 2. 柔道整復療養費支給申請及び受領委任制度について理解し説明ができる 		
授業内容	教育内容	教育方法・留意点	
	<ol style="list-style-type: none"> 1. 社会保障制度について (3回) 2. 療養費制度について (1回) 3. 患者の権利について (2回) 	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書をベースにプリントを活用し理解を深める。 ・演習問題を行い、授業内容の離開を深める。 	
成績評価の方法 定期試験の成績と各講義の課題を加味して評価する。	テキスト・教材・参考書 関係法規 2023年版 (医歯薬出版) プリントを配布する。		
担当教員の実務経験の有無	有	・	無
実務経験の内容			

シラバス

【令和 5 年度】

盛岡医療大学校

柔道整復学科		基礎分野	専門基礎分野	<input type="checkbox"/> 専門分野
科目名 柔道整復学 I		講師名 渡部 康光		
年次・開講時期	時間数／単位数／授業回数	教育方法		
1 年次・通年	60 時間／2 単位／30 回	<input type="checkbox"/> 講義・実技・実習・演習		
授業概要 (目的)	柔道整復師として骨折や脱臼、捻挫、筋、腱などの軟部組織損傷に対して施術を行う上で必要な基本的知識の習得を目的とする。			
目標	骨折、軟部組織損傷の発生機序、症状、合併症、診断、後療法、固定法の基本を習得する。			
授業内容	教育内容		教育方法・留意点	
	柔道整復術、人体に加わる力、損傷時に加わる力、痛みの基礎、骨の形態と機能、骨損傷の概説、骨損傷の分類、骨折の症状、骨折の合併症、小児・高齢者骨折の特徴、骨折の治療に影響を与える因子、診察の手順、骨折・脱臼の整復法、軟部組織損傷の初期処置、固定法、後療法、頭部外傷			
成績評価の方法 定期試験の結果を主に出席状況、授業態度等を加味して評価する。		テキスト・教材・参考書 柔道整復学理論編改訂第 7 版（南江堂） 他 プリント配布		
担当教員の実務経験の有無		有	・	<input type="checkbox"/> 無
実務経験の内容				

シラバス

【令和 5 年度】

盛岡医療大学校

柔道整復学科		基礎分野	専門基礎分野	専門分野
科目名 柔道整復学Ⅱ		講師名 萩野 裕子		
年次・開講時期		時間数／単位数／授業回数		教育方法
1 年次・通年		60 時間／2 単位／30 回		講義・実技・実習・演習
授業概要 (目的)	1. 臨床で患者様に丁寧にわかりやすく症状や施術内容を説明できることを目的として、総論では関節、筋、腱、末梢神経の構造・機能と損傷の基礎的知識について講義する。			
目標	1. 関節、筋、腱、末梢神経の構造・機能と損傷の基礎的知識について理解し、人に説明する事が出来る。 2. 各損傷の基礎知識に基づいて治療方法を自ら考える事が出来る。			
授業内容	教育内容		教育方法・留意点	
	4-2 関節の損傷 A. 関節の構造と機能 B. 関節損傷の概説 C. 関節損傷の分類 D. 鑑別診断 E. 脱臼 F. 関節構成組織損傷 4-3 筋の損傷 A. 筋の形態と機能 B. 筋損傷の概説 C. 筋損傷の分類 D. 筋損傷の症状 E. 筋損傷の治癒機序 F. 筋損傷の予後 4-4 腱の損傷 A. 腱の形態と機能 B. 腱損傷の概説 C. 腱損傷の分類 D. 腱損傷の症状 E. 治癒機序 4-5 末梢神経の損傷 A. 神経の構造と機能 B. 神経損傷の概説 C. 神経損傷の分類 E. 末梢神経損傷の治癒過程 D. 末梢神経損傷の症状		・教科書を中心に講義し、教科書記載事項の理解を深めるためにプリントを作成して配布、又は power point などを使用する。 ・授業では毎回、前回授業の復習小テストを行い反復学習で内容理解の定着を図る。	
成績評価の方法 定期試験の成績と出席状況、授業態度を加味して総合評価する。		テキスト・教材・参考書 柔道整復学理論編改訂第7版（南江堂） カラー人体解剖学（西村書店） ネッター解剖学図譜（丸善）、 解剖トレーニングノート（医学教育出版社）他		
担当教員の実務経験の有無		有	・	無
実務経験の内容				

シラバス

【令和 5 年度】

盛岡医療大学校

柔道整復学科	基礎分野	専門基礎分野	専門分野
科目名 柔道整復学Ⅲ	講師名 萩野 裕子		
年次・開講時期	時間数／単位数／授業回数	教育方法	
2年次・通年	60時間／2単位／30回	講義 ・実技・実習・演習	
授業概要 (目的)	1. 臨床で患者様に丁寧にわかりやすく症状や施術内容を説明できることを目的とする。		
目標	1. 頸部、胸・背部、腰部の脱臼、軟部組織損傷について、上肢の脱臼、軟部組織損傷、その他必要な鑑別を要する類症について理解し、実際に臨床現場での問診、視診、触診などの施術の際の基礎知識として応用できることを目標とする。		
授業内容	教育内容	教育方法・留意点	
	2. 脱臼 2-1 脊椎の脱臼 B. 頸椎脱臼 C. 胸椎脱臼 D. 腰椎脱臼 2-2 上肢の脱臼 A. 鎖骨の脱臼 B. 肩関節脱臼 C. 肘関節の脱臼 D. 手関節部の脱臼 E. 手根中手関節の脱臼 F. 中手指節関節, 手指間関節の脱臼 3. 軟部組織損傷 3-1 体幹の軟部組織損傷 B. 頸部の軟部組織損傷 C. 胸・背部の軟部組織損傷 D. 腰部の軟部組織損傷 3-2 上肢の軟部組織損傷 A. 肩関節部の軟部組織損傷 B. 上腕の軟部組織損傷 C. 肘関節部の軟部組織損傷 D. 前腕部の軟部組織損傷 E. 手関節部の軟部組織損傷 F. 手部, 指部の軟部組織	・教科書を中心に講義し、教科書記載事項の理解を深めるためにプリントを作成して配布、又は power point などを使用する。 ・授業では毎回、前回授業の復習小テストを行い反復学習で内容理解の定着を図る。	
成績評価の方法 定期試験の成績と出席状況、授業態度を加味して総合評価する。	テキスト・教材・参考書 柔道整復学理論編改訂第7版（南江堂） カラー人体解剖学（西村書店） ネット解剖学図譜（丸善）、 解剖トレーニングノート（医学教育出版社）他		
担当教員の実務経験の有無	有	・	無
実務経験の内容			

シラバス

【令和5年度】

盛岡医療大学校

柔道整復学科		基礎分野	専門基礎分野	専門分野
科目名 柔道整復学IV		講師名 佐々木 智章		
年次・開講時期	時間数／単位数／授業回数	教育方法		
2年次・通年	60時間／2単位／30回	講義・実技・実習・演習		
授業概要 (目的)	総論で学んだ知識を基礎として、具体的に各部位の損傷に関する知識の獲得を目的とする。			
目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 症状等から損傷部位・損傷程度を想定することができる。 2. 損傷名から想定可能な臨床所見を挙げることができる。 3. 獲得した知識を実技で活かすことができる。 			
授業内容	教育内容		教育方法・留意点	
	頸椎骨折/胸椎骨折/腰椎骨折/胸骨骨折/肋骨骨折 鎖骨骨折/肩甲骨骨折/上腕骨近位端部骨折/上腕骨骨幹部骨折/上腕骨遠位端部骨折 前腕骨近位端部骨折/前腕骨骨幹部骨折/前腕骨遠位端部骨折/手根骨骨折/指骨骨折/中手骨骨折		教科書を基に、板書および対話形式、授業の補助資料としてプリント配布	
成績評価の方法 定期試験（4者択一、4者択二、記述）による		テキスト・教材・参考書 柔道整復学（理論編および実技編） 適宜プリント配布		
担当教員の実務経験の有無		有	・	無
実務経験の内容				

シラバス

【令和 5 年度】

盛岡医療大学校

柔道整復学科	基礎分野	専門基礎分野	専門分野
科目名 柔道整復学Ⅴ	講師名 西村 卓一		
年次・開講時期	時間数／単位数／授業回数	教育方法	
2年次・通年	60時間／2単位／30回	講義 ・実技・実習・演習	
授業概要 (目的)	3年次に控える国家試験を見据え、下肢外傷の実際を学習し負傷の要点を理解する事により、下肢外傷問題を考察できる知識の習得を目的とする。		
目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 下肢損傷に関する知識を理解できる。 2. 臨床現場で活用できる知識を理解できる。 3. 国家試験レベルの問題が解ける。 		
授業内容	教育内容	教育方法・留意点	
	第Ⅲ章 各論 1-3. 下肢の骨折 16回 2-3. 下肢の脱臼 3回 3-3. 下肢の軟部組織損傷 13回	教科書をわかりやすく図解したプリントを使用して講義を行う。 →要点のまとめプリントを行わせ、授業で答え合わせを行う。 →演習問題（国試の傾向に沿った実践練習）を課題として行わせ、授業で答え合わせを行う。	
成績評価の方法 定期試験	テキスト・教材・参考書 柔道整復学・理論編改訂第7版 同・実技編改訂第2版、他プリントを配布する。		
担当教員の実務経験の有無	有	・	無
実務経験の内容			

シラバス

【令和5年度】

盛岡医療大学校

柔道整復学科		基礎分野	専門基礎分野	専門分野
科目名 柔道整復学VI		講師名 露久保 範昭		
年次・開講時期	時間数／単位数／授業回数	教育方法		
3年次・通年	60時間／2単位／30回	講義・実技・実習・演習		
授業概要 (目的)	上肢の損傷について学習し、国家試験合格に向けた内容とするとともに資格取得後の現場で対応出来る知識を再構築する			
目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 国家試験合格に向けた基礎を再度理解する。 2. 応用的な問題にも対応できる知識の習得 3. 臨床現場における対応の実践 			
授業内容	教育内容		教育方法・留意点	
	鎖骨部の損傷、肩関節の損傷、上腕部の損傷、肘関節部の損傷、前腕部の損傷、手関節部の損傷、手関節部の損傷、手・指部の損傷について学ぶ		国家試験合格とともに臨床現場における対応できる知識の習得 基礎編、応用編を十分に学び自分自身で対応できるスキルを実践	
成績評価の方法 定期試験	テキスト・教材・参考書 柔道整復学（理論編・実技編） プリント、標準整形外科学、骨折と外傷など			
担当教員の実務経験の有無	有	・	無	
実務経験の内容				

シラバス

【令和5年度】

盛岡医療大学校

柔道整復学科		基礎分野	専門基礎分野	専門分野
科目名 外傷の保存療法		講師名 高橋 滋美		
年次・開講時期	時間数／単位数／授業回数		教育方法	
3年次・後期	30時間／2単位／15回		講義・実技・実習・演習	
授業概要 (目的)	柔道整復学と整形外科学の保存療法を包括的に学び、国家試験問題を正答できる知識を身に付けることを目的とする。			
目標	1. 柔道整復師が行う保存療法について、柔道整復学と整形外科学を横断的に学び、国家試験問題を確実に正答することができる。			
授業内容	教育内容		教育方法・留意点	
	1回：運動器の基礎知識 2回：整形外科診察法、整形外科検査法、整形外科的治療法 3回：骨・関節損傷総論（柔道整復術との比較）、スポーツ整形外科総論、リハビリテーション総論 4回～6回：疾患別各論 7回：試験前まとめ 8回：解説授業 9回～13回：身体部位別各論 14回：年度末小テスト 15回：小テスト解説・年間まとめ		講義形式 授業終了時に同日の授業で学習した範囲の問題演習を行う。	
成績評価の方法 定期試験・年度末小テストにてそれぞれ50%ずつの割合で評価する。		テキスト・教材・参考書 公益社団法人全国柔道整復学校協会監修 整形外科学（南江堂） ほか、資料プリントを配布する。		
担当教員の実務経験の有無		有	・	無
実務経験の内容				

シラバス

【令和5年度】

盛岡医療大学校

柔道整復学科		基礎分野	専門基礎分野	専門分野
科目名 柔道整復学Ⅶ		講師名 鈴木 星子		
年次・開講時期	時間数／単位数／授業回数	教育方法		
3年次・通年	60時間／2単位／30回	講義・実技・実習・演習		
授業概要 (目的)	柔道整復学総論と下肢損傷について学習し、国家試験合格に向けた内容とするとともに資格取得後の現場で対応出来る知識を身につける			
目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 総論と下肢損傷について基本的な知識を身につける。 2. 応用問題に対応できる内容を理解する。 			
授業内容	教育内容		教育方法・留意点	
	<ol style="list-style-type: none"> 1. 柔道整復学 総論 (10回) 2. 柔道整復学 下肢骨折 (10回) 3. 国試対策 (10回) 		<ul style="list-style-type: none"> ・総論・下肢(骨折)全範囲の復習をし、最終確認を行う。 ・練習問題を行い問題の出題傾向を把握する。 ・演習問題を実施し、60%以上の正答率を出せるよう指導解説を行う。 	
成績評価の方法 定期試験		テキスト・教材・参考書 柔道整復学 (理論編・実技編) プリント、など		
担当教員の実務経験の有無		有	・	無
実務経験の内容				

シラバス

【令和5年度】

盛岡医療大学校

柔道整復学科		基礎分野	専門基礎分野	専門分野
科目名 特別講義 I		講師名 松岡 靖		
年次・開講時期	時間数／単位数／授業回数		教育方法	
3年次・前期	30時間／1単位／15回		講義・実技・実習・演習	
授業概要 (目的)	柔道整復師が損傷に類似した疾患との鑑別を行うために、一般臨床医学範囲の病態について理解し、判断するための基礎的素養を身に付けることができる。			
目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 診察についての流れとそれぞれの診察法の特徴について理解し、適切な選択をすることができる。 2. 主要な疾患についての特徴について理解し、適切な選択をすることができる。 			
授業内容	教育内容		教育方法・留意点	
	1回：診察概論 1回～4回：診察各論（医療面接、視診） 5回：診察各論（打診） 6回：診察各論（聴診） 7回：試験前まとめ 8回：解説授業 診察各論（触診） 9回：診察各論（生命徴候） 10回：診察各論（感覚検査） 11回：診察各論（反射検査） 検査法 12回：主要な疾患（呼吸器疾患） 13回：主要な疾患（循環器疾患） 14回：主要な疾患（消化器疾患） 15回：試験前まとめ		講義形式 授業終了時に同日の授業で学習した範囲の問題演習を行う。	
成績評価の方法 2回の定期試験にてそれぞれ50%ずつの割合で評価する。		テキスト・教材・参考書 公益社団法人全国柔道整復学校協会監修 一般臨床医学（改訂第3版）（医歯薬出版）ほか、 資料プリントを配布する。		
担当教員の実務経験の有無		有	・	無
実務経験の内容				

シラバス

【令和 5 年度】

盛岡医療大学校

柔道整復学科		基礎分野	専門基礎分野	専門分野
科目名 特別講義Ⅱ		講師名 高橋 滋美		
年次・開講時期	時間数／単位数／授業回数	教育方法		
3年次・前期	30時間／1単位／15回	講義・実技・実習・演習		
授業概要 (目的)	各疾患の病態を理解することによって、臨床現場において鑑別をするための知識を身につける。			
目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 疾患の分類を理解することができる。 2. 疾患の分類や臨床症状について理解することができる。 3. 柔道整復師の適応疾患か否かを鑑別することができる。 			
授業内容	教育内容		教育方法・留意点	
	1章 病理学とは (1回) 2章 疾病の一般 (1回) 3章 細胞障害 (2回) 4章 循環障害 (3回) 5章 進行性病変 (4回) 6章 炎症 (5回) 7章 免疫 (6回) 8章 腫瘍 (8回) 9章 先天異常 (9回) 10章 病因 (10回) 総合演習問題 (11～15回)		・教科書を要約したプリントを配布し、パワーポイントにて講義を行う。 ・講義を始める前に、前の週の確認試験を行おう。	
成績評価の方法 定期試験、出席状況、授業態度を加味して総合評価を行う。		テキスト・教材・参考書 病理学 改訂第3版		
担当教員の実務経験の有無		有	・	無
実務経験の内容				

シラバス

【令和5年度】

盛岡医療大学校

柔道整復学科		基礎分野	専門基礎分野	専門分野
科目名 特別講義Ⅲ		講師名 萩野 裕子		
年次・開講時期	時間数／単位数／授業回数		教育方法	
3年次・前期	30時間／1単位／15回		講義・実技・実習・演習	
授業概要 (目的)	1. 柔道整復学で学んできた骨折・脱臼・捻挫・打撲その他軟部組織損傷の発生機序から治療、治癒過程、合併症や鑑別が必要な疾患、並びに指導管理に関して、総合的に理解を深める事を目的とする。			
目標	1. 臨床現場において、外傷やその他鑑別が必要な疾患についてのインフォームド・コンセントをスムーズに行う事が出来ることを目標とする。			
授業内容	教育内容		教育方法・留意点	
	1. 骨等に関する生理学的理解を深める。 2. 筋肉等に関する生理学的理解を深める。 3. 神経等に関する生理学的理解を深める。 4. 血管等に関する生理学的理解を深める。		・内容の理解度を演習問題で確認しながら進める。	
成績評価の方法 定期試験（後期中間試験）の成績と出席状況、授業態度を加味して総合評価する。		テキスト・教材・参考書 柔道整復学理論編改訂第6版（南江堂）、生理学改訂第4版（南江堂）他		
担当教員の実務経験の有無		有	・	無
実務経験の内容				

シラバス

【令和 5 年度】

盛岡医療大学校

柔道整復学科		基礎分野	専門基礎分野	専門分野
科目名 特別講義Ⅳ		講師名 西村 卓一		
年次・開講時期	時間数／単位数／授業回数		教育方法	
3年次・前期	30時間／1単位／15回		講義・実技・実習・演習	
授業概要 (目的)	リハビリテーション医学の基礎、応用的な知識の定着を目的とする。			
目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 疾患別に特徴的の症状や治療法などを想起することができるようになる。 2. 臨床現場で活用できる知識を理解できる。 3. 国家試験レベルの問題が解ける。 			
授業内容	教育内容		教育方法・留意点	
	<ol style="list-style-type: none"> 1. リハビリテーション理念、対象と障害の階層 1 回 2. リハビリテーション評価学 3 回 3. リハビリテーション治療技術 1 回 4. リハビリテーション障害学と治療学 6 回 5. リハビリテーション医学関連職種 1 回 6. 高齢者のリハビリテーション 3 回 		教科書をわかりやすく図解したプリントを使用して講義を行う。 →要点のまとめプリントを行わせ、授業で答え合わせを行う。 →演習問題（国試の傾向に沿った実践練習）を課題として行わせ、授業で答え合わせを行う。	
成績評価の方法 定期試験	テキスト・教材・参考書 リハビリテーション医学 改訂第 4 版 他プリントを配布する。			
担当教員の実務経験の有無	有	・	無	
実務経験の内容				

シラバス

【令和 5 年度】

盛岡医療大学校

柔道整復学科		基礎分野	専門基礎分野	専門分野
科目名 特別講義V		講師名 渡部 康光		
年次・開講時期		時間数／単位数／授業回数	教育方法	
3年次・前期		30回／1単位／15回	講義・実技・実習・演習	
授業概要 (目的)	柔道整復師が鑑別診断を行う上で必要な様々な病態の知識の習得を目的とする。			
目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 柔道整復師として鑑別診断ができ、病態を説明できるようになる。 2. 3. 			
授業内容	教育内容		教育方法・留意点	
	感染性疾患 骨および軟部腫瘍、非感染性軟部 骨関節疾患 全身性の骨・軟部疾患 骨端症、四肢循環障害 神経・筋疾患			
成績評価の方法 定期試験の結果を主に出席状況、授業態度等を加味して評価する。		テキスト・教材・参考書 整形外科学改訂第4版（南江堂） プリント配布		
担当教員の実務経験の有無		有	・	無
実務経験の内容				

シラバス

【令和5年度】

盛岡医療大学校

柔道整復学科		基礎分野	専門基礎分野	専門分野
科目名 特別講義VI		講師名 松岡 靖		
年次・開講時期	時間数／単位数／授業回数		教育方法	
3年次・後期	30時間／1単位／15回		講義・実技・実習・演習	
授業概要 (目的)	柔道整復師が損傷に類似した疾患との鑑別を行うために、一般臨床医学範囲の病態について理解し、判断するための基礎的素養を身に付けることができる。			
目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 診察についての流れとそれぞれの診察法の特徴について理解し、適切な選択をすることができる。 2. 主要な疾患についての特徴について理解し、適切な選択をすることができる。 			
授業内容	教育内容		教育方法・留意点	
	1回：主要な疾患（肝胆膵疾患） 2回：主要な疾患（代謝疾患） 3回：主要な疾患（内分泌疾患） 4回：主要な疾患（血液・造血器疾患） 5回：主要な疾患（腎・尿路疾患） 6回：主要な疾患（リウマチ・膠原病・アレルギー） 7回：試験前まとめ 8回：解説授業 主要な疾患（感染症、環境要因による疾患） 9回：主要な疾患（神経疾患①） 10回：主要な疾患（神経疾患②） 11回：診察概論・診察各論・検査法復習 12回：主要な疾患復習① 13回：主要な疾患復習② 14回：年度末小テスト 15回：小テスト解説・年間まとめ		講義形式 授業終了時に同日の授業で学習した範囲の問題演習を行う。	
成績評価の方法 定期試験・年度末小テストにてそれぞれ50%ずつの割合で評価する。		テキスト・教材・参考書 公益社団法人全国柔道整復学校協会監修 一般臨床医学（改訂第3版）（医歯薬出版）ほか、 資料プリントを配布する。		
担当教員の実務経験の有無		有	・	無
実務経験の内容				

シラバス

【令和5年度】

盛岡医療大学校

柔道整復学科		基礎分野	専門基礎分野	専門分野
科目名 特別講義Ⅶ		講師名 松岡 靖、佐々木智章、鈴木星子、萩野裕子、 西村卓一、高橋滋美		
年次・開講時期	時間数／単位数／授業回数		教育方法	
3年次・集中	50時間／2単位／25回		講義・実技・実習・演習	
授業概要 (目的)	夏期特訓講座にて国家試験科目の強化を図り、合格できるよう基礎力・応用力を高める。			
目標	1. 診察についての流れとそれぞれの診察法の特徴について理解し、適切な選択をすることができる。 2. 主要な疾患についての特徴について理解し、適切な選択をすることができる。			
授業内容	教育内容		教育方法・留意点	
	1回～25回：必修問題（柔道の歴史、医療概論、関係法規、社会保障制度と職業倫理、柔道整復理論）、解剖学、生理学、運動学、病理学、衛生学、リハビリテーション医学、一般臨床医学、外科学、整形外科学及び柔道整復理論の内容について、「柔道整復師国家試験出題基準 2022年版」（医歯薬出版株式会社）をもとに弱点補強を行う。		講義形式	
成績評価の方法 出席状況、授業態度等により総合的に評価する。		テキスト・教材・参考書 各教科使用教科書 ほかプリント配布する。		
担当教員の実務経験の有無		有	・	無
実務経験の内容				

シラバス

【令和5年度】

盛岡医療大学校

柔道整復学科		基礎分野	専門基礎分野	専門分野
科目名 物理療法機器等の取扱い		講師名 西村 卓一		
年次・開講時期	時間数／単位数／授業回数	教育方法		
1年次・後期期末	15時間／1単位／8回	講義・実技・実習・演習		
授業概要 (目的)	3年次に控える国家試験を見据え、物理療法の取扱い方、適応症や禁忌と注意点について理解を深め、臨床現場で活用できる知識を身につけることができる。			
目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 物理的エネルギーによる生体反応を学習して説明できる。 2. 物理療法の取扱いと適応症や禁忌、注意点の説明ができる。 3. 国家試験レベルの問題を解くことができる。 			
授業内容	教育内容		教育方法・留意点	
	<ol style="list-style-type: none"> 1. 電気療法 2回 2. 温熱療法 2回 3. 光線療法 1回 4. 寒冷療法 1回 5. 牽引療法 1回 		物理療法機器の取扱いのポイントについて学習する →物理的エネルギーが生体にどのような反応をもたらすのか講義 →臨床現場での取り扱い 注意点について講義 →演習問題（国試の傾向に沿った実践問題）を課題として行わせ、授業で答え合わせをする。	
成績評価の方法 定期試験		テキスト・教材・参考書 柔道整復学・理論編改訂第7版 他プリントを配布する。		
担当教員の実務経験の有無		有	・	無
実務経験の内容				

シラバス

【令和5年度】

盛岡医療大学校

柔道整復学科		基礎分野	専門基礎分野	専門分野
科目名 柔道整復術適応の臨床的判定		講師名 松岡 靖		
年次・開講時期	時間数／単位数／授業回数	教育方法		
3年次・後期	30時間／2単位／15回	講義・実技・実習・演習		
授業概要 (目的)	柔道整復師が施術を行うにあたり、施術範囲外の疾患との鑑別は大変重要である。様々な損傷について医学・柔道整復学の見地から総合的に学習し、将来臨床現場で適切に鑑別できる知識の習得を目的とする。 また、医用画像について理解を深め、読影の基本能力を身に付ける。			
目標	1. 柔道整復師の施術範囲外の疾患について理解する。 2. 医用画像（単純X線、CT、MRI、超音波、核医学検査）の概要を理解する。			
授業内容	教育内容		教育方法・留意点	
	1回：柔道整復術の適否を考える 損傷に類似した症状を示す疾患 A 内臓疾患の投影を疑う疼痛 2回：B 腰痛を伴う疾患 3回：C 化膿性の炎症など、軟部組織の圧迫損傷 4回：血流障害を伴う損傷、末梢神経損傷を伴う損傷 5回：脱臼骨折、外出血を伴う損傷 6回：病的骨折および脱臼、意識障害を伴う損傷 7回：意識障害を伴う損傷 テスト前まとめ 8回：中間試験解説授業 意識障害を伴う損傷 9回：脊髄症状のある損傷、呼吸運動障害を伴う損傷 10回：内臓損傷の合併が疑われる損傷、高エネルギー外傷 11回～12回：医用画像の理解 13回：総復習 14回：年度末小テスト 15回：小テスト解説・年間まとめ		講義形式 授業終了時に同日の授業で学習した範囲の問題演習を行う。	
成績評価の方法 定期試験・年度末小テストにてそれぞれ50%ずつの割合で評価する。		テキスト・教材・参考書 施術の適応と医用画像の理解（南江堂） ほか、資料プリントを配布する。		
担当教員の実務経験の有無		有	・	無
実務経験の内容				

シラバス

【令和 5 年度】

盛岡医療大学校

柔道整復学科		基礎分野	専門基礎分野	専門分野
科目名 柔道整復実技 I		講師名 露久保 範昭		
年次・開講時期	時間数／単位数／授業回数	教育方法		
1 年次・通年	60 時間／2 単位／30 回	講義・実技・実習・演習		
授業概要 (目的)	<ul style="list-style-type: none"> ・柔道整復実技の基礎を学び実技動作を習得する。 ・基本的な包帯法を身につけ患者に対して行うことの重要性を理解する。 			
目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 各種包帯法の説明ができる 2. 各種衛生材料の使用方法が適切にできる 3. 身体の各部位に対応した包帯法の選択および被覆ができる 			
授業内容	教育内容		教育方法・留意点	
	固定の目的. 固定材料の種類. 巻軸帯の巻き方と注意事項. 巻軸帯の巻き戻し. 基本包帯法 (環行帯・螺旋帯・蛇行帯・折転帯・亀甲帯・麦穂帯) 冠名包帯法 (デゾー包帯法・ヴェルポー包帯法・ジュール包帯法) 三角巾の使い方、厚紙副子・クラーメル副子の作成 膝関節の検査法 足関節の検査法		包帯固定学 (改訂第 2 版) を中心に包帯法の基礎を習得する。 基礎的な行動・動作となるため 1 年次にしっかりと身につけ行動・動作が適切にできるようにする。	
成績評価の方法 実技試験	テキスト・教材・参考書 教科書 (包帯固定学・柔道整復学実技編) プリント			
担当教員の実務経験の有無	有 ・ 無			
実務経験の内容	接骨院勤務・開業歴 40 年、スキー場ドクターパトロール 25 年 介護福祉施設機能訓練指導			

シラバス

【令和5年度】

盛岡医療大学校

柔道整復学科		基礎分野	専門基礎分野	<input checked="" type="checkbox"/> 専門分野
科目名 柔道整復実技Ⅱ		講師名 鈴木 星子		
年次・開講時期	時間数／単位数／授業回数	教育方法		
1年次・通年	60時間／2単位／30回	講義・ <input checked="" type="checkbox"/> 実技・実習・演習		
授業概要 (目的)	3年次に控える認定実技審査と国家試験を見据え、基礎的な測定法や検査法の実技を行うことにより、知識及び技術を習熟させるとともに、臨床現場で活用できる技能の習得を目的とする。			
目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 関節可動域、徒手筋力検査を通して形態の正常を理解し適切な判断ができる。 2. 体幹部・股関節部の損傷を理解しその検査法を実施できる。 3. 患者への説明、助手への指示が適切に行うことができる。 			
授業内容	教育内容		教育方法・留意点	
	<ol style="list-style-type: none"> 1. 関節可動域測定 (10回) 2. 徒手筋力検査 (10回) 3. 臨床徒手検査 (10回) 		解剖学的用語説明 (骨学・筋学・関節構造について)、関節可動域測定 (ROM、関節角度計を用いた検査)、徒手筋力検査 (MMT) 体幹部・股関節部の臨床徒手検査をグループで術者役・患者役・助手役を適宜分担して実施する。	
成績評価の方法 実技試験		テキスト・教材・参考書 柔道整復学理論編 改訂第7版 (南江堂) ほか プリントを配布 東大式角度計、巻尺メジャー、		
担当教員の実務経験の有無		<input checked="" type="checkbox"/> 有	・ 無	
実務経験の内容 柔道整復師として勤務経験あり				

シラバス

【令和5年度】

盛岡医療大学校

柔道整復学科		基礎分野	専門基礎分野	<input checked="" type="checkbox"/> 専門分野
科目名 柔道整復実技Ⅲ		講師名 松岡 靖		
年次・開講時期	時間数／単位数／授業回数	教育方法		
2年次・通年	60時間／2単位／30回	講義・ <input checked="" type="checkbox"/> 実技・実習・演習		
授業概要 (目的)	3年次に控える認定実技審査を見据え、同審査で行われる上肢の骨折・脱臼・軟部組織損傷について、整復法、検査法及び固定法を習熟させるとともに、臨床現場で活用できる技能の習得を目的とする。			
目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 上肢の骨折・脱臼・軟部組織損傷の整復法・検査法・固定法が実施できる。 2. 上肢の骨折・脱臼・軟部組織損傷の概要について説明できる。 3. ローテーションで変わる様々な体型の実技相手に対して適切に実技を実施できる。 			
授業内容	教育内容		教育方法・留意点	
	1～7回：鎖骨骨折（整復法、固定法） 8回～10回：肩鎖関節脱臼（整復法、固定法） 11回～15回：肩関節脱臼（整復法、固定法） 16回：腱板損傷（概説、検査法） 17回：上腕二頭筋長頭腱損傷（概説、検査法） 18回～20回：上腕骨外科頸骨折（整復法、固定法） 21回：舟状骨骨折（キャストライト固定法） 22回：後期中間実技試験前まとめ 23回：足関節捻挫（プライトン固定） 24回～30回：鎖骨骨折・肩鎖関節脱臼・ 肩関節脱臼・上腕骨外科頸骨折・腱板損傷・ 上腕二頭筋長頭腱損傷復習		実技 毎回ローテーションで実技相手を変えることで様々な体型・年齢や性別等に対応できるように留意する。 評価にあたっては服装・態度も採点対象とする。また、口頭試問も実施しそれぞれの外傷に関する知識も採点に含める。	
成績評価の方法 年4回の実技試験にてそれぞれ25%ずつの割合で評価する。	テキスト・教材・参考書 公益社団法人全国柔道整復学校協会監修 柔道整復学・実技編（改訂第2版）（南江堂） 柔道整復学・理論編（改訂第7版）（南江堂） 包帯固定学（改訂第2版）（南江堂） ほか、資料プリントを配布する。			
担当教員の実務経験の有無	<input checked="" type="checkbox"/> 有 ・ 無			
実務経験の内容 柔道整復師として岩手県内の接骨院で勤務した経験有り。				

シラバス

【令和 5 年度】

盛岡医療大学校

柔道整復学科		基礎分野	専門基礎分野	専門分野
科目名 柔道整復実技IV		講師名 高橋 滋美		
年次・開講時期	時間数／単位数／授業回数	教育方法		
2年次・通年	60時間／2単位／30回	講義・実技・実習・演習		
授業概要 (目的)	3年次に行われる認定実技審査合格を目標に、同審査で行われる上肢の骨折・脱臼・軟部組織損傷について、整復法・固定法・検査法を身につける。 臨床現場においても活用することが出来る技能を習得する。			
目標	1. 各損傷の発生機序、症状、合併症、鑑別診断、後療法を理解し説明することが出来る 2. 整復法、検査法、固定法を適切な肢位・ポジション・固定範囲で実施することが出来る。 3. 患者への説明、助手への指示が適切に行うことが出来る。			
授業内容	教育内容		教育方法・留意点	
	1.上腕骨骨幹部骨折 固定法 (1～3回) 2.肘関節後方脱臼 整復法 (4～5回) 3.肘関節後方脱臼 固定法 (6～7回) 4.肘内障 整復法 (8回) 5.コーレス骨折 整復法 (9～12回) 6.コーレス骨折 固定法 (13～14回) 7.第5中手骨頸部骨折 固定法 (15～16回) 8.第2指PIP関節背側脱臼 固定法 (17～18回) 9.肋骨骨折 固定法 (19～20回) 10.総復習 (21～30回)		・教科書を要約したプリントを配布し、パワーポイントにて講義を行う。 ・教員が始めに実演にて手本を見せながら、実技練習を行う。	
成績評価の方法 定期試験の成績、出席状況、授業態度を加味して総合評価する。		テキスト・教材・参考書 柔道整復学・理論編 (改定第6版・7版)、柔道整復学・実技編 (改定第2版) その他プリントを配布		
担当教員の実務経験の有無		有 ・ 無		
実務経験の内容 鍼灸接骨院にて5年間勤務				

シラバス

【令和 5 年度】

盛岡医療大学校

柔道整復学科		基礎分野	専門基礎分野	専門分野
科目名 柔道整復実技V		講師名 露久保 範昭		
年次・開講時期	時間数／単位数／授業回数	教育方法		
2年次・通年	60時間／2単位／30回	講義・実技・実習・演習		
授業概要 (目的)	下肢の損傷に対する診察および検査法、整復法、固定法を学ぶ 機能解剖や運動を再確認するとともにスポーツ障害・外傷についても理解する			
目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 問診・視診・触診が適切にできるようにする 2. 検査法・整復法・固定法の重要性を知り適切な動作を実践する 3. 患者に対し行うということを念頭に置き行動する 			
授業内容	教育内容		教育方法・留意点	
	<p>股関節～大腿部の機能解剖 股関節周囲の障害、大腿部の損傷に対する診察および検査法</p> <p>膝関節の機能解剖 膝関節の損傷・障害に対する診察および検査法・固定法</p> <p>下腿部～足関節の機能解剖 下腿部の損傷（骨折を含む）に対する診察および検査法・固定法</p> <p>足関節の損傷に対する診察および検査法・固定法</p>		<p>認定実技審査要領を基本としながら診察・検査法・固定法を行う。</p> <p>日常の診察で遭遇しやすい損傷や障害に対する対応技術の習得。</p> <p>基礎的な動作から応用ができるような技術を身に着けるとともに実践できるようにする。</p>	
成績評価の方法 実技試験	テキスト・教材・参考書 柔道整復学・機能解剖学的触診技術（下肢編9 プリント配布			
担当教員の実務経験の有無	有 ・ 無			
実務経験の内容	接骨院勤務・開業歴 40 年、スキー場ドクターパトロール 25 年 介護福祉施設機能訓練指導			

シラバス

【令和 5 年度】

盛岡医療大学校

柔道整復学科	基礎分野	専門基礎分野	専門分野
科目名 柔道整復実技VI	講師名 露久保 範昭		
年次・開講時期	時間数／単位数／授業回数	教育方法	
3年次・通年	60時間／2単位／30回	講義・ 実技 ・実習・演習	
授業概要 (目的)	認定実技審査に対する固定法を行う。 各損傷に対する適切な固定法を習得するとともに助手に対する指示や患者の病状の変化などに対応できるようにする		
目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 各損傷に対する固定法を理解する。 2. 各損傷に対する固定法を実践する。 3. 患者、助手に対する指示や材料の選択を適切に行い行動できる。 		
授業内容	教育内容	教育方法・留意点	
	< 巻軸帯・晒等を用いた固定法 > 鎖骨骨折、上腕骨骨幹部骨折、Colles 骨折、第 5 中 手骨頸部骨折、肋骨骨折、下腿骨骨幹部骨折 肩鎖関節上方脱臼、肩関節前方脱臼、肘関節後方脱 臼、手第 2 指 PIP 関節背側脱臼 アキレス腱断裂 < TAPING > 膝関節内側側副靭帯損傷、足関節外側側副靭帯損傷	認定実技審査要領に準じて 各損傷の固定法を実践する。 各種材料を適切に選択し、患 者への説明、助手への指示が できるようにする。	
成績評価の方法 実技試験	テキスト・教材・参考書 柔道整復学（実技編） プリント		
担当教員の実務経験の有無	有 ・ 無		
実務経験の内容 接骨院勤務・開業歴 40 年、スキー場ドクターパトロール 25 年 介護福祉施設機能訓練指導			

シラバス

【令和 5 年度】

盛岡医療大学校

柔道整復学科	基礎分野	専門基礎分野	専門分野
科目名 柔道整復実技Ⅶ	講師名 佐々木 智章		
年次・開講時期	時間数／単位数／授業回数	教育方法	
3年次・通年	60時間／2単位／30回	講義・ 実技 ・実習・演習	
授業概要 (目的)	認定実技審査に対する診察および整復法を行う。 外傷に対する知識の習得・定着、それを利用した診察内容と方法、整復の方法をはじめ患者に対する姿勢を学ぶこと		
目標	1. 各損傷に対する診察内容と整復法を理解する。 2. 各損傷に対する診察内容と整復法を実践する。 3. 患者への説明、助手に対する動作の指示が適切に行う。		
授業内容	教育内容	教育方法・留意点	
	鎖骨骨折・上腕骨外科頸骨折・コレス骨折・肩鎖関節上方脱臼・肩関節前方脱臼 肘関節脱臼・肘内障・肩腱板損傷・上腕二頭筋腱損傷・ハムストリングス損傷 大腿四頭筋打撲・膝関節側副靭帯損傷・膝関節十字靭帯損傷・膝関節半月板損傷 下腿三頭筋損傷（肉ばなれ）・足関節外側靭帯損傷の診察と検査、整復法	認定実技審査要領に従い、審査ポイントを伝達しながら整復・検査・診察を実践する。 何度も繰り返し練習することで身につくものであるため、その大事さを理解することを留意する。	
成績評価の方法 実技試験による	テキスト・教材・参考書 柔道整復学（実技編） 適宜プリント配布		
担当教員の実務経験の有無	有	・	無
実務経験の内容 接骨院勤務 13 年（施術管理者 3 年） 介護福祉施設 1 年			

シラバス

【令和5年度】

盛岡医療大学校

柔道整復学科		基礎分野	専門基礎分野	専門分野
科目名 柔道整復実技Ⅷ		講師名 萩野 裕子		
年次・開講時期	時間数／単位数／授業回数	教育方法		
3年次・前期	30時間／1単位／15回	講義・実技・実習・演習		
授業概要 (目的)	1. 柔道整復学で学んできた主な骨折・脱臼・捻挫・打撲、その他軟部組織損傷の発生機序、症状、合併症や鑑別、整復、固定、後療法について総合的に理解を深める事を目的とする。			
目標	1. 臨床現場において、様々な外傷やその他鑑別が必要な疾患について、治療をスムーズに進めることができることを目標とする。			
授業内容	教育内容		教育方法・留意点	
	①定型的鎖骨骨折の診察および整復、固定 ②肋骨骨折の固定 ③上腕骨外科頸外転型骨折の診察および整復 ④上腕骨骨幹部三角筋付着部より遠位骨折の固定 ⑤コーレス骨折の診察および整復・固定 ⑥第5中手骨頸部骨折の固定 ⑦肩鎖関節上方脱臼の診察および整復、固定 ⑧肩関節烏口下脱臼の診察および整復、固定 ⑨肘関節後方脱臼の診察および整復、固定 ⑩肘内障の診察および整復 ⑪示指PIP関節背側脱臼の固定 ⑫腱板損傷、上腕二頭筋長頭腱損傷の診察 ⑬大腿部打撲・肉離れ・大腿四頭筋・ハム ⑭膝関節側副靭帯、十字靭帯、半月板損傷の診察 ⑮膝関節側副靭帯損傷の固定 ⑯下腿骨骨幹部骨折の固定 ⑰下腿三頭筋肉ばなれの診察 ⑱アキレス腱断裂の固定 ⑲足関節外側靭帯損傷の診察、固定 ⑳包帯法 各部の名称、種類、巻き方、基本包帯法と冠名包帯法の種類と適応、実施法		・演習問題を中心に授業を進めていき、必要に応じてプリントを配布、Power Pointなども利用しながら理解を深めていく。	
成績評価の方法 定期試験の成績と出席状況、授業態度を加味して総合評価する。		テキスト・教材・参考書 柔道整復学理論編改訂第7版（南江堂）		
担当教員の実務経験の有無		有 ・ 無		
実務経験の内容 柔道整復師として勤務経験あり				

シラバス

【令和5年度】

盛岡医療大学校

柔道整復学科		基礎分野	専門基礎分野	<input type="checkbox"/> 専門分野
科目名 高齢者の外傷予防		講師名 西村 卓一		
年次・開講時期	時間数／単位数／授業回数	教育方法		
1年次・前期	30時間／1単位／15回	講義・ <input type="checkbox"/> 実技・実習・演習		
授業概要 (目的)	高齢者への機能訓練指導ができるようになることを目的とする。			
目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 日常生活動作を理解する。 2. 生理学的動作を誘導できるようになる。 3. 高齢者への機能訓練指導を実施できるようになる。 			
授業内容	教育内容		教育方法・留意点	
	<ol style="list-style-type: none"> 1. 高齢者の理解（サルコペニア・フレイル）1回 2. ロコモティブシンドローム1回 3. 基本動作訓練指導2回 4. 脳卒中片麻痺の基本動作訓練1回 5. 深部腱反射 表在反射 病的反射2回 6. 関節可動域訓練2回 7. 上肢下肢ストレッチ2回 8. 機能訓練評価方法2回 		機能訓練指導や検査法をわかりやすく要約したプリントを使用して実技を行う。 →実際に動作を誘導して生理学的動作を習得する。 →演習問題（国試の傾向に沿った実践練習）を課題として行わせ、授業で答え合わせをする。	
成績評価の方法 定期実技試験		テキスト・教材・参考書 柔道整復師と機能訓練指導		
担当教員の実務経験の有無		<input checked="" type="checkbox"/> 有 ・ 無		
実務経験の内容 柔道整復師としての実務経験あり。				

シラバス

【令和5年度】

盛岡医療大学校

柔道整復学科		基礎分野	専門基礎分野	専門分野
科目名 競技者の外傷予防		講師名 西村 卓一		
年次・開講時期	時間数／単位数／授業回数	教育方法		
1年次・後期	30時間／1単位／15回	講義・実技・実習・演習		
授業概要 (目的)	競技者への外傷予防対策やトレーニング指導ができるようになることを目的とする。			
目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. トレーニングの概要を理解する。 2. トレーニングやコンディショニングの誘導や処置をできるようになる。 3. 競技者へのトレーニング指導ができるようになる。 			
授業内容	教育内容		教育方法・留意点	
	<ol style="list-style-type: none"> 1. 外傷再発予防テーピング6回 2. スポーツ手技療法1回 3. チューブトレーニング2回 4. 競技別外傷予防6回 		<p>トレーニングやコンディショニング方法をわかりやすく要約したプリントを使用して実技を行う。</p> <p>→実際に動作を誘導してトレーニングやストレッチ動作を習得する。</p> <p>→演習問題（国試の傾向に沿った実践練習）を課題として行わせ、授業で答え合わせをする。</p>	
成績評価の方法 定期実技試験		テキスト・教材・参考書 競技者の外傷予防		
担当教員の実務経験の有無		有 ・ 無		
実務経験の内容 柔道整復師として実務経験あり。				

シラバス

【令和 5 年度】

盛岡医療大学校

柔道整復学科		基礎分野	専門基礎分野	専門分野
科目名 臨床実習 I		講師名 西村 卓一		
年次・開講時期	時間数／単位数／授業回数	教育方法		
1 年次・前期および 後期中間まで	4 5 時間／1 単位／2 3 回	講義・実技・ 実習 ・演習		
授業概要 (目的)	全身の骨・筋・関節・靭帯を解剖学的に理解し適切な触察ができるようになる と共に、部位ごとに鑑別検査法ができるようになることを目的とする。			
目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 全身の骨・筋・関節・靭帯を確認して触察できる。 2. 触察した部位に好発する損傷の鑑別検査法ができる。 3. 施術の問診、視診、触診、徒手検査まで実施できる。 			
授業内容	教育内容	教育方法・留意点		
	<ol style="list-style-type: none"> 1. 柔道整復師施術の基礎 2 回 2. 上肢触察法・鑑別検査法 9 回 3. 体幹触察法・鑑別検査法 3 回 4. 下肢触察法・鑑別検査法 9 回 	医療面接での問診及び視診 ポイントについて実習する。 →医療面接時の注意点 環境配慮、身だしなみ 言葉遣い、目線配慮 問診、視診の流れを実習。 骨・筋・関節・靭帯の位置 を視診及び触診で確認する。 →ドクターポジションや 触察部位や検査操作が適切 か実技確認する。		
成績評価の方法 授業内小テスト、出席状況、 臨床実習日誌の提出などから評価する。		テキスト・教材・参考書 柔道整復学・理論編改訂第 7 版、解剖学第 2 版 同・実技編改訂第 2 版、他プリントを配布する。		
担当教員の実務経験の有無		有	・ 無	
実務経験の内容 柔道整復師として実務経験あり。				

シラバス

【令和 5 年度】

盛岡医療大学校

柔道整復学科		基礎分野	専門基礎分野	<input type="checkbox"/> 専門分野
科目名 臨床実習Ⅱ		講師名 高橋 滋美		
年次・開講時期	時間数／単位数／授業回数		教育方法	
2年次・通年	45時間／1単位／23時間		講義・実技・ <input type="checkbox"/> 実習・演習	
授業概要 (目的)	2年次に行う外部臨床実習に際に必要な知識・技術の習得を身につける。			
目標	<ol style="list-style-type: none"> 療養費について説明ができる。 社会保障について理解している。 臨床現場にて使われる検査法を理解し、行うことができる。 			
授業内容	教育内容		教育方法・留意点	
	(1～13回) 外部臨床実習準備 (14～30回) 社会保障制度 療養費 検査法（上肢・下肢） 整復法（上肢・下肢） 運動療法 物理療法 医療面接		<ul style="list-style-type: none"> 外部臨床実習担当者と連携を取りつつ、必要書類を作成する。 教科書を要約したプリントを配布し、パワーポイントにて講義を行う。 教員が始めに実演にて手本を見せながら、実技練習を行う。 	
成績評価の方法 出席状況、臨床実習日誌の提出などを加味して総合評価を行う。		テキスト・教材・参考書 柔道整復学・実技編（改訂第2版） 柔道整復学・理論編（改訂第6版） 解剖学（改訂第2版） 社会保障制度と柔道整復師の職業倫理		
担当教員の実務経験の有無		<input checked="" type="checkbox"/> 有	・ 無	
実務経験の内容 鍼灸接骨院にて5年間勤務				

シラバス

【令和5年度】

盛岡医療大学校

柔道整復学科		基礎分野	専門基礎分野	専門分野
科目名 臨床実習Ⅲ		講師名 臨床実習指導者講習会受講者、 各医療機関等の指導担当者		
年次・開講時期		時間数／単位数／授業回数	教育方法	
2年次・集中		45時間／1単位／実習施設による	講義・実技・実習・演習	
授業概要 (目的)	臨床現場での実習を行うことで、より高度な知識や技術を習得するとともに柔道整復師としてのあるべき姿勢などに関して総合的に学習する。			
目標	(公社) 全国柔道整復学校協会臨床実習ガイドライン検討委員会編 「柔道整復師 臨床(地)実習ガイドライン」記載の評価項目(態度、付帯業務、診察、物理療法、施術の介助、固定、その他)に関して適切に実施できる。			
授業内容	教育内容		教育方法・留意点	
	(公社) 全国柔道整復学校協会臨床実習ガイドライン検討委員会編 「柔道整復師 臨床(地)実習ガイドライン」記載の評価項目(態度、付帯業務、診察、物理療法、施術の介助、固定、その他)を状況に応じて適宜実施する。		実習形式 やむを得ず欠席した場合は各実習受け入れ先での追加実習を課す。	
成績評価の方法 (公社) 全国柔道整復学校協会臨床実習ガイドライン検討委員会編 「柔道整復師 臨床(地)実習ガイドライン」記載の評価項目(態度、付帯業務、診察、物理療法、施術の介助、固定、その他)に関し、総合的に A(80点以上)、B(79～70点)、C(69～60点)、D(59点以下)の4段階で評価する。		テキスト・教材・参考書 各施術所・医療機関等の指示による		
担当教員の実務経験の有無		有	・	無
実務経験の内容 それぞれの指導担当者が柔道整復師としての実務経験あり。				

シラバス

【令和5年度】

盛岡医療大学校

柔道整復学科		基礎分野	専門基礎分野	専門分野
科目名 臨床実習Ⅳ		講師名 松岡 靖		
年次・開講時期	時間数／単位数／授業回数	教育方法		
3年次・通年	45時間／1単位／23回	講義・実技・実習・演習		
授業概要 (目的)	これまで学んできた柔道整復師として必要とされる知識・技能を生かし、実際の臨床現場で有資格者による施術の補助を行う。また、将来の医療・介護職として患者の来院時からお帰りになるまでの一連の流れを理解し、実践することができる。			
目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 柔道整復師として患者の前に出るにあたり望ましい態度を身に付け実践することができる。 2. 接骨院での基本業務の流れを理解し実施することができる。 3. 身体診察、後療法、検査法等の技能を身に付け実施することができる。 			
授業内容	教育内容		教育方法・留意点	
	<p>1回～23回：診察の進め方、施術録の記入の仕方、身体診察の流れ（視診、触診、計測、評価、徒手検査等）、指導管理、外傷予防、後療法（手技療法、運動療法、物理療法）、傷病類推・判断、整復法・検査法・固定法、療養費の取扱い など</p> <p>ほか、4～6人の小グループに分かれ、週替わりで本校附属接骨院での見学実習を行う。</p>		<p>実習形式</p> <p>やむを得ず欠席した場合は附属接骨院での追加実習を課す。</p>	
成績評価の方法 出席状況、実習録の提出状況、レポートの内容等を加味して評価する。		<p>テキスト・教材・参考書</p> <p>柔道整復学・理論編 第6版（南江堂）</p> <p>柔道整復学・実技編 改訂第2版（南江堂）</p> <p>ほか、資料プリントを配布する。</p>		
担当教員の実務経験の有無		有	・	無
実務経験の内容 柔道整復師として岩手県内の接骨院で勤務した経験有り。				